

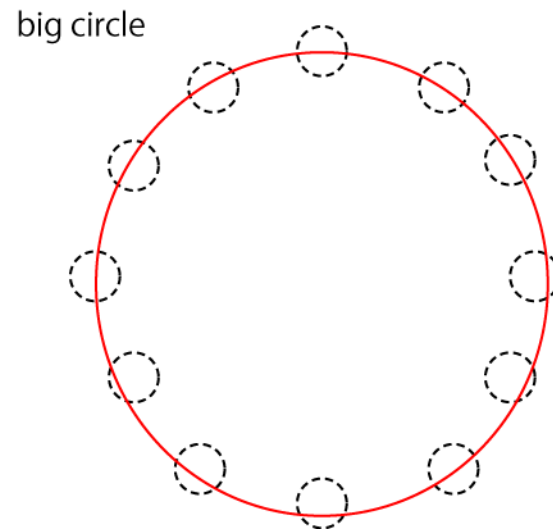
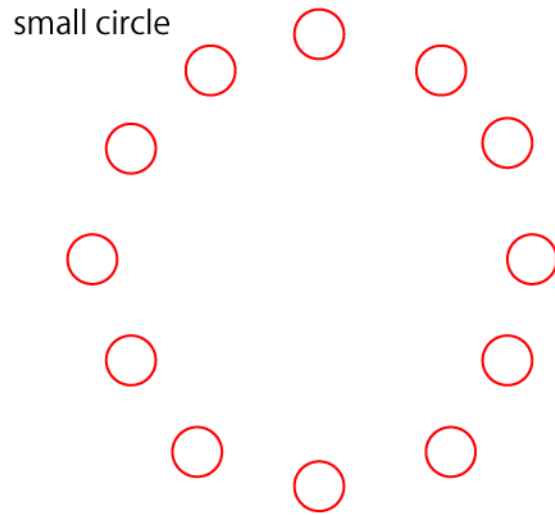
Phase1

つながる。そして輪になる。

Inoue Takashi
Tani Takashi
Komatsu Satoshi
Hiratani Yusaku

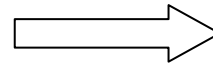
つながる。そして輪になる。

- 「つながる」
…小さなコミュニティ内のつながり
- 「輪になる」
…大きなコミュニティ内のつながり



都市の現状

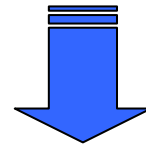
明確な隣地との境界線
オープンスペースの不足



コミュニティの欠如



公的空間(ソト)へ私的空間(ウチ)のあふれ出し

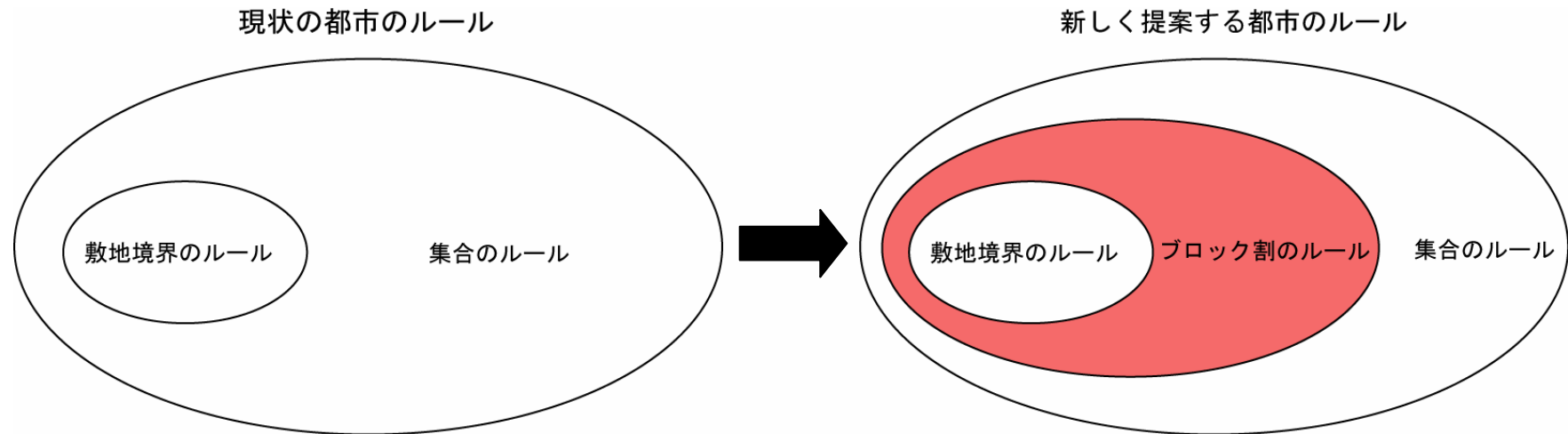


新たなウチとソトのつながりによって明確な境界線をなくす

新しく提案する都市のルール

ルールの構成

- step1.敷地境界のルール …… 隣接する敷地とのつながり
- step2.ブロック割のルール …… 街区を分割したブロック内のつながり
- step3.集合のルール …… 街区全体のつながり

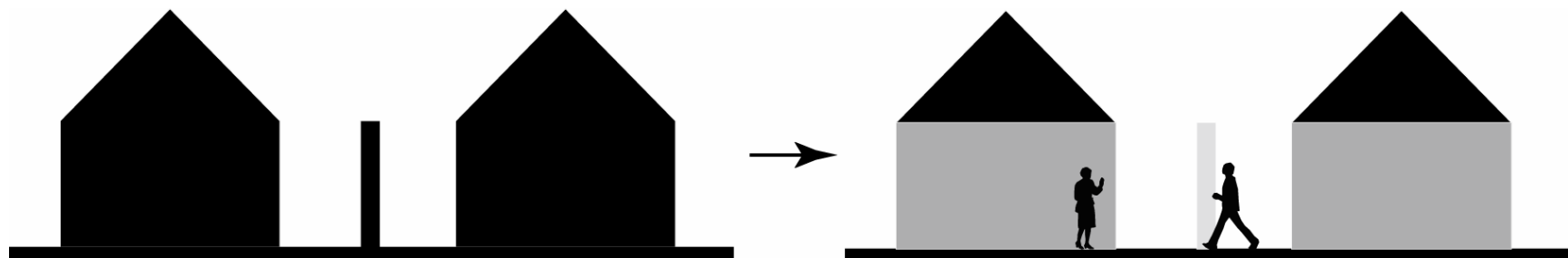


step1.敷地境界のルール

各住戸が街区の共有空間となるアクセス可能なヴォイドをもつ

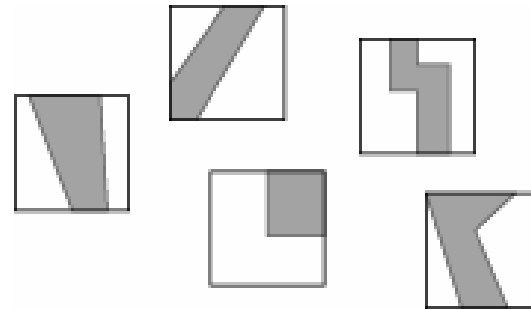
そのヴォイドを隣り合う住戸同士でつなぐことで明確な境界線が消えて新たな関係性をもつ

このつながりによりブロック内に小さなコミュニティが発生する



step1.敷地境界のルール

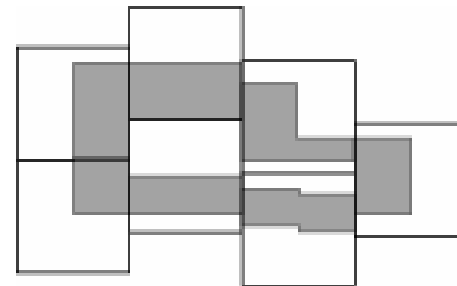
ヴォイドの開け方に制約はない



ヴォイドのつなぎ方にも制約はない



しかしヴォイドは共有空間として
連続したつながりをもたなければならない



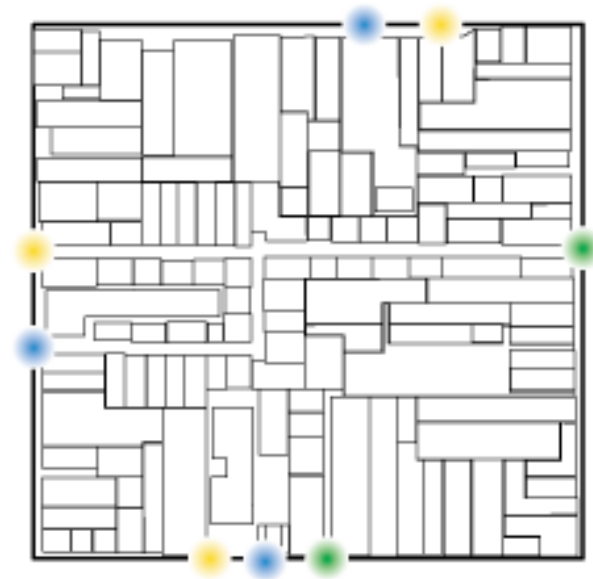
step2. ブロック割のルール

「**関**」とはウチとソトを区切る心理的な境界

路地の入口に「**関**」が存在する

「**関**」のスケールや奥行きなどが路地を特徴づける

「**関**」を核として、街区内にブロックを形成していく



step2. ブロック割のルール

新しく提案する都市のルール

敷地境界のルール

…隣とのつながり

集合のルール

…大きなつながり

現状の都市のルール

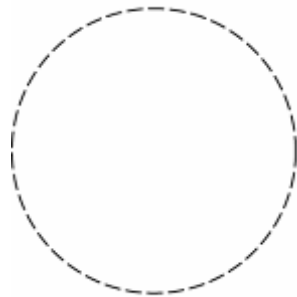
+

ブロック割のルール

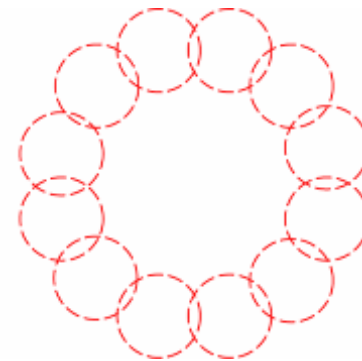
…小さなつながり

新しく提案する都市のルール

隣とのつながりから大きなつながりを直接形成するのではなく、ブロック割のルールを用いることで、間に強く小さなつながりをもたせ、街区をまとめるより強い大きなつながりを形成する
この小さなつながりの単位を**ブロック**とする



隣接するつながりのみで、できる大きなつながり

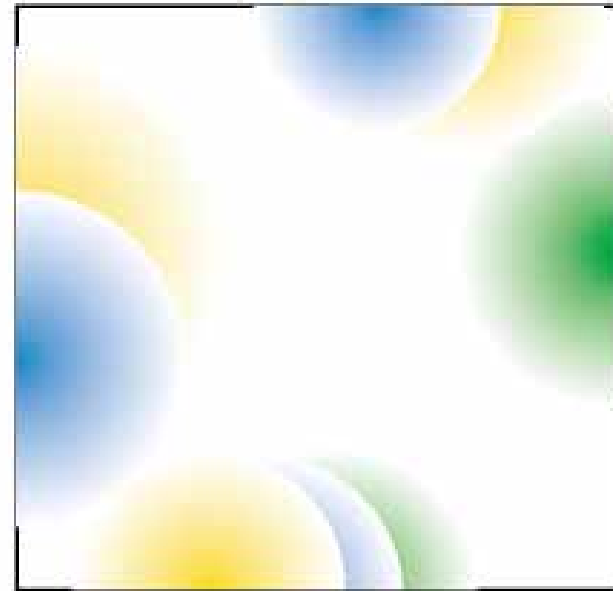


小さなつながりを経て、できる大きなつながり

step2. ブロック割のルール

街区を更地にしても鬨は
土地の記憶として残り続ける

鬨を中心として、ウチに向かって
奥行きグラデーションが発生している

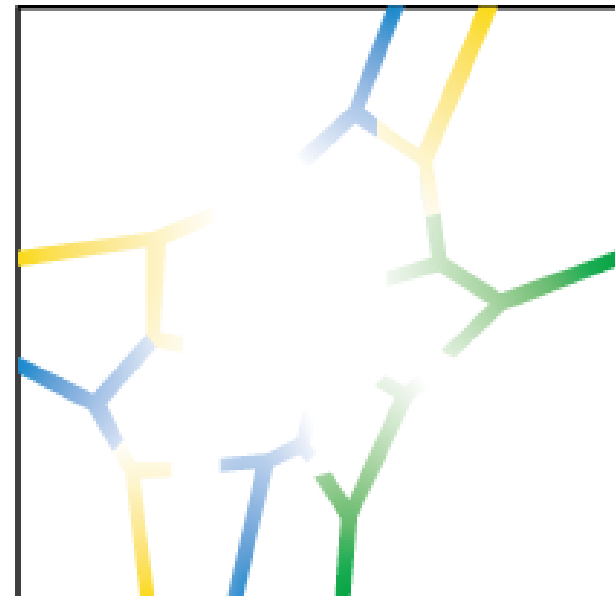


step2. ブロック割のルール

鬮を起点にウチに向う線を導く

現れた線が結ばれることによって小単位の領域が形成される

領域を分割する線は路地として機能する

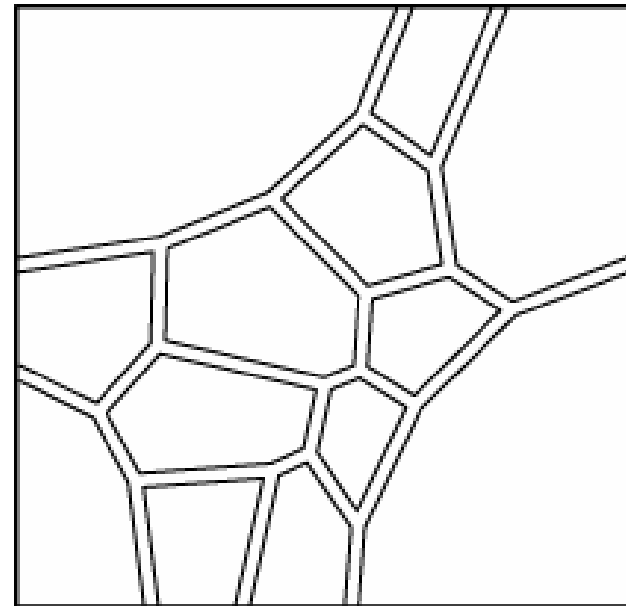


step2. ブロック割のルール

路地によって区切られた領域は
小さなコミュニティの単位であるブロックとなる

また路地は連続することで
どこかにつながってゆくような感覚をもたらす

これらによって街区でのウチとソトとの境界が
あいまいになり私的空間が公的空間に開かれてゆく

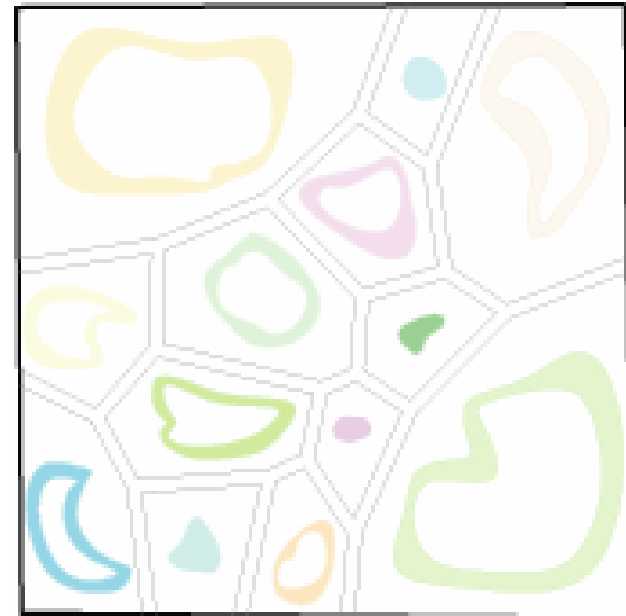


step2. ブロック割のルール

各住戸がもつヴォイドのつなぎ方によって、
それぞれのブロックに特徴が生まれる

各ブロックが独自の色をもった小さなコミュニティをもつ

ブロック内で「つながる」



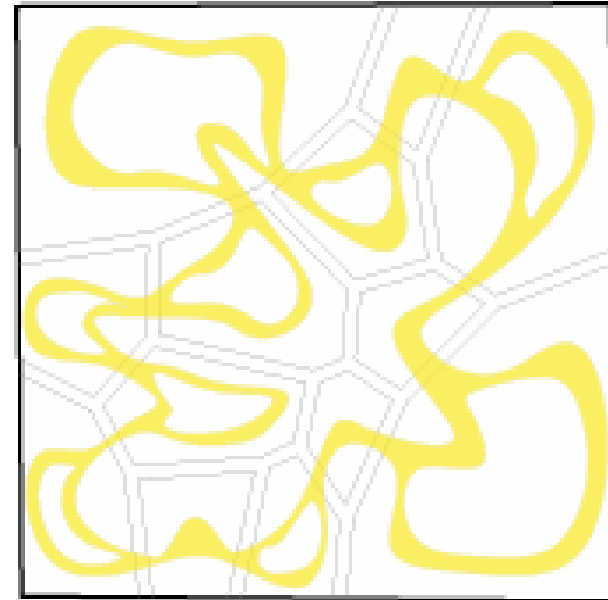
step3. 集合のルール

各ブロックは共有ヴォイド間でアクセス可能なものとする

但し共有ヴォイドは路地とは独立したものであり
直接路地とはアクセスしてはならない

そうして共有ヴォイドの連続が
街区をまとめる大きなつながりを形成する

街区全体で「輪になる」

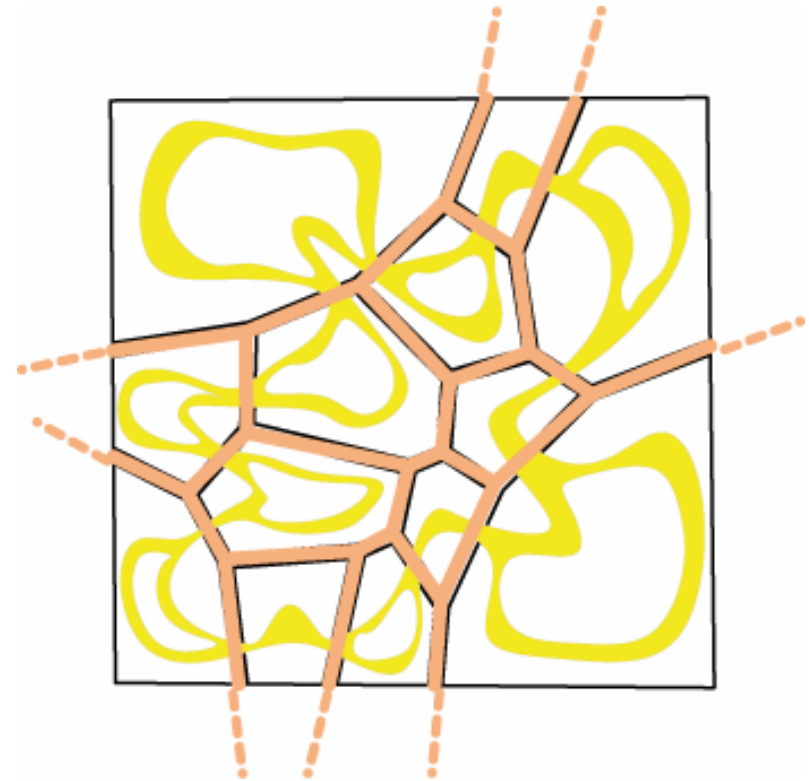


step3. 集合のルール

共有ヴォイドによってできたウラの人とのつながりは
オモテの路地へとあふれ出す

さらにこのつながりは路地を経由し、
隣接する街区へとつながっていく

街と街との新たなコミュニティが生まれる



ルールの意義

- 闘を残し、そこから路地が形成されることで土地の記憶を継承する
- 個々の境界に共有ヴォイドが介することで、ウチとソトを曖昧にする半公共的なコミュニティを創出させる
- それによってできたウラの人とのつながりをオモテの路地に拡張する
- 人とのつながりが連続した路地を経由していくことによって、街と街との新たなコミュニティを創出させる

モデル例

- モデルの選定敷地

京都の四条～五条
+ 烏丸～堀川にある1街区

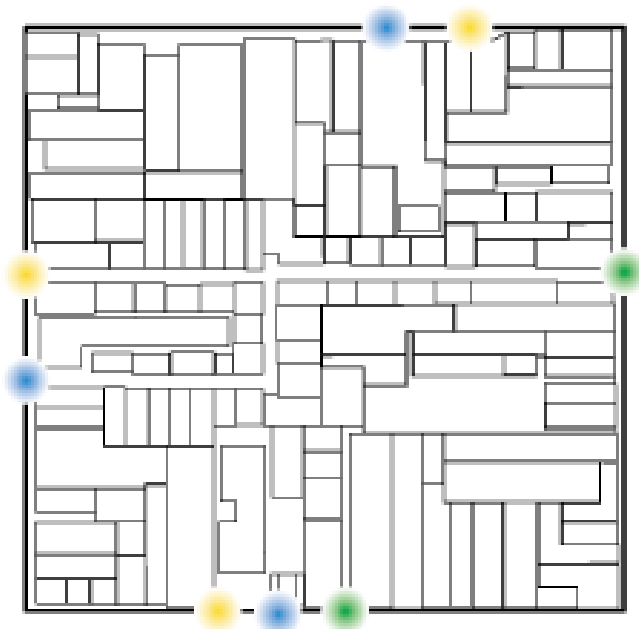


モデル例

- モデルの選定敷地

この街区には鬮が8つ存在する

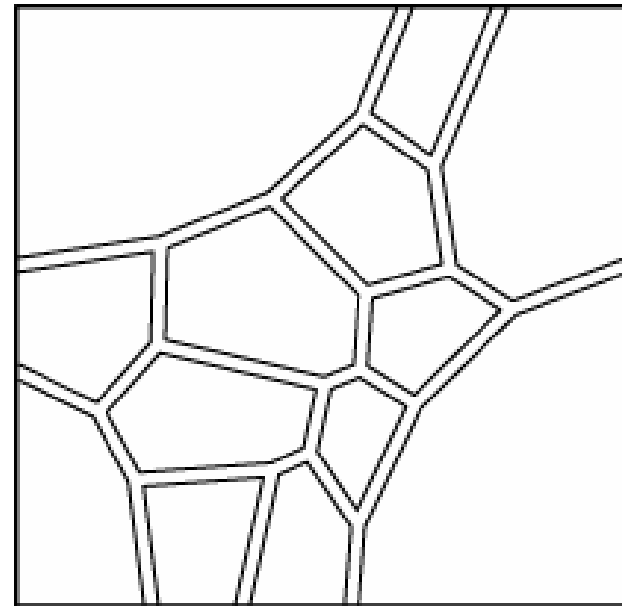
これらの鬮には路地や駐車場の入口が含まれている



- モデルのブロック割り

鬮を元にブロック割を行う

13のブロックを形成した



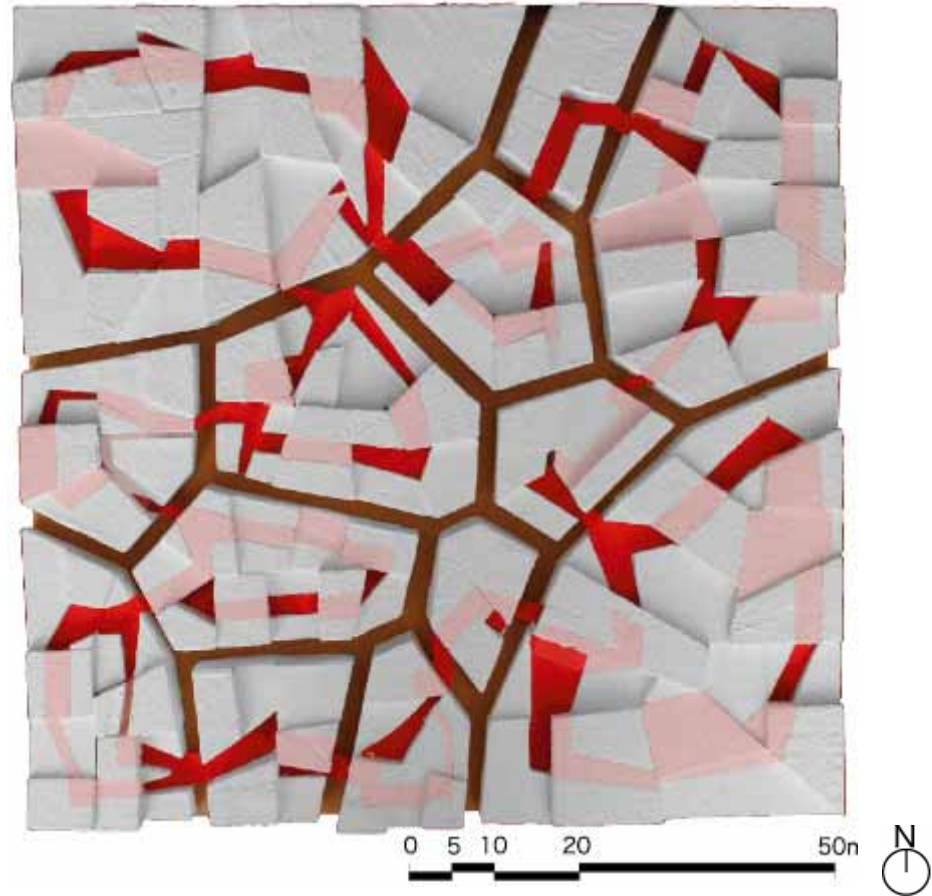
モデル例

- モデル例の
共有ヴォイドのつながり

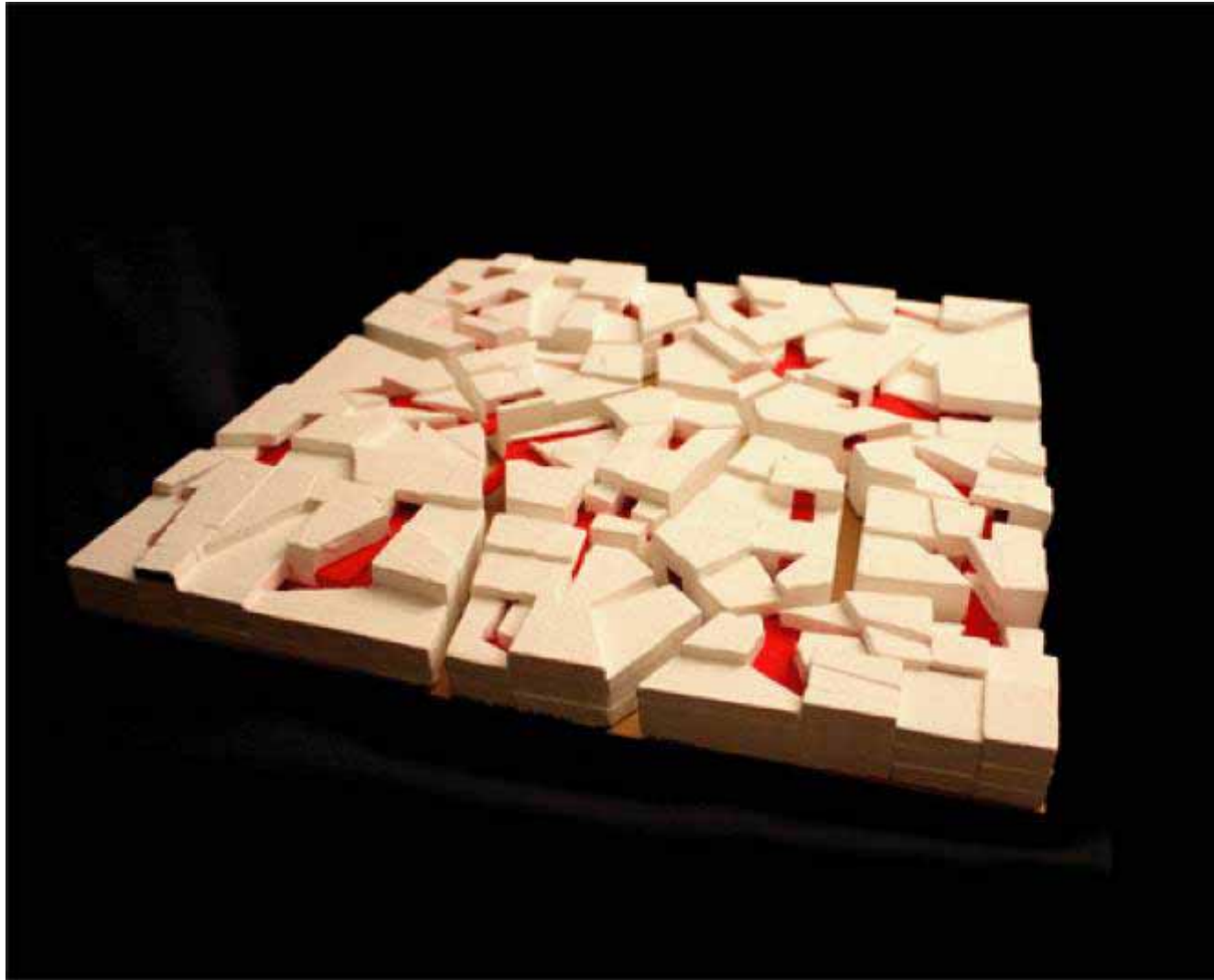
■ 建物外部に開けた輪のつながり

■ 建物内部に貫入する輪のつながり

■ 敷地割りで形成された路地のつながり



モデル街区全体



ルール

- rule.0 グリッド内における総住戸数、鬮の位置は既存の状態とかわらないものとする。
- rule.1 鬮を起点とした路地によって敷地割りがなされる。それぞれの路地は全て連続しなければならない。但し起点同士は直接直線的に結んではならない。そうして分割されたブロックを一つの集合体とする。
- rule.2 各住居につき一つはアクセス可能な共有空間としてのヴォイドを必要とする。ブロック内で全ての各住戸のヴォイドは連続しなければならない。
- rule.3 さらに全てのブロックをアクセス可能なヴォイドで連続しなければならない。但し直接路地とはアクセスしてはならない。